

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393400060		
法人名	有限会社 ふなびきメディカル		
事業所名	グループホームかがやき (西区ユニット)		
所在地	〒484-0064 愛知県犬山市前原西3丁目35番2		
自己評価作成日	平成31年1月11日	評価結果市町村受理日	平成31年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kazokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2393400060-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kazokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2393400060-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋瑞穂区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	平成31年1月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念にもある、「一人ひとりが笑顔でその人らしく生活する」事を基本に その方に合った安心して 笑顔でいられる生活をサポートできるように 日々スタッフ皆で取り組んでいます。季節をいつでも感じられるような外出支援や、その人らしく、やりがいや 生きがいがあるような生活が送れるような環境作りを考えて生活していただけるようにしています。当事業所では併設されている他事業所との交流も行っています。また、経営母体に有床診療所があり、医療との連携を持つことにより 健康で安心して過ごして頂けます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者本人の誕生日祝いにぜんざいを大鍋で届けてくださる家族もいて、運営推進会議には常に2~4名の出席者があり、開設から7年を積み重ね家族と良好な関係を築いています。また法人内には介護付有料老人ホーム、グループホーム2棟、住宅型有料老人ホーム、訪問介護事業所が在るほか、母体となるグループ法人は医療型入院施設の他7つの医療・介護事業所を有しており、人材交流や医療連携などのスケールメリットを大いに享受できる環境にあります。忘年会や慰労弁当等の福利厚生とともに24時間365日医療とつながる安心が定着率の高さとなり、「利用者が大好き」という職員を生んでいることが強みの事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の行事の参加や、「その人らしく生活をしていただく」を理念にスタッフとの話し合いを持ち 日々のサポートをへ活かしている。図書館や、買い物支援 喫茶店訪問を行っている。	理念は掲示するとともに、毎月利用者18名全員についてカンファレンス的に話し合う機会を持ち、利用者の現状把握と課題を明確にすることで『理念:その人らしく生活していただけるよう』につなげています。	どの程度理念が達成できているかが、現在は介護計画の達成度としていますが、今後は職員自身の自己評価及び振り返りがあると、なお良いと思います。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	推進会議では、自治会長 民生委員 高齢者安心サポートセンターの参加や、地元のウォーキング大会の参加(事業所からは協賛品の提供) 近隣の小中学生の職業体験の受け入れを行っている。	自治会には加入していませんが、地域行事には協賛等で貢献しています。自力歩行が可能な利用者と一緒に参加する前原区ウォーキング大会は4、5年の継続行事となり、中学生、高校生の職業体験を受入れたり、ウクレレ等ボランティア訪問もあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方への自由な見学、相談は常時行っている。認知症サポーター養成講座を行い認知症への理解を深めてもらえるようにした		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日々の活動報告を行い参加できない方の意見や、報告は推進会議後の報告書として各家庭へ郵送している。災害時の非常食の備蓄状況 避難時の対応の報告や 緊急連絡先の変更届も依頼し災害時の対応が迅速にできるよう改善した	敷地内にある同法人のグループホームと合同で運営推進会議が隔月開催されています。開催場所も交互とし、それぞれの取り組み状況が示されているため、自然な形で切磋琢磨できる仕組みと見受けられ、この場を通じて実践の振り返りや改善策も練られています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	身元引受人などでの困難事例の入所への相談などは市町村に相談したり、介護相談員受け入れやAED講習 災害時の避難の依頼を消防署に行ったり 社会福祉協力校の受け入れを行っている	高齢者安心センター(地域包括支援センター)は入居者情報も折々にくださり、また事業所も「認知症サポーター養成講座の講習の場として貸して欲しい」との要請に応じて、相互扶助の関係を築いています。他にも、市の介護相談員の受け入れがあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内にて 身体拘束廃止委員会を行いその中で知り得た情報をもとに 定期的ミーティングにて勉強会を開催している。	本年の法改正に基づき身体拘束廃止委員会を設置、年4回の会議開催はあと1回を残すのみです。また途中段階で、「以前の指針を流用せず、現状に即した内容に変更するように」「内容は勉強会的なものではなく事例検討で」などの行政指導を得て、現在は是正しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的ミーティングの中で 勉強会を開催し知識 意識の向上を図るように努力している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は対象者はいないが、定期のミーティングにて勉強会を開催し、制度の理解に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にて説明を行い、疑問 質問に対して随時対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の出欠の用紙に 家族からの意見が記入できるようにし、かがやきだよりを発行したり年間の施設での様子をDVDに作成し施設での運営状況を知っていただくようにしている。	事業所通信(『かがやきだより』)を毎月発行するとともに、ベストショットは写真集としてまとめて届けています。運営推進会議にも毎回2~4名ほどの出席があり、食事会も兼ねたクリスマス会には家族と一緒に食卓を囲んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者には職員から出た 問題・事例発生時に相談 報告を行っている。事業所全体でも月1にミーティングがあり 各部署での問題・事例が報告された際には 法人全体での意見を出し合い解決に結びつけている。	『朝礼が合同、夕礼はユニット毎に』申し送りを密とし、毎月スタッフミーティングで情報共有につなげ、法人の営業会議、トップミーティングには管理者が出席することで、縦横の情報の流れを円滑にさせています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職業規定に基づき 職員がやりがいや向上心が持てるような職場環境となるよう配慮している。週に2~3回はホームを訪れ職場環境を把握し職員に声掛けを行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者より、実践者研修 外部の研修案内参加推進への働きかけがあり可能な限りでの参加をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設職員の施設見学は常時行っている。多職種連携会議での情報交換や 営業での情報交換 相談をしている。担当地域包括支援センターには 認知症サポーター養成講座を行って頂いた。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談にてアセスメントを行い 本人のニーズを把握し、家族の了承をへて面会などに行き 本人とのコミュニケーションを図り信頼関係 安心した気持ちでの入所に繋がるよう支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設入所相談から施設見学 契約時にアセスメントを行い、サービスに繋げている。家族が納得できるまで相談を受け付けており、面会時にはお声をかけさせていただき ご本人の様子など報告し 常に相談ができる関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が今 何を求めているかの要望を情報収集し出来る限りの対応をしている。必要に応じて 他事業所(他施設 居宅 包括)への紹介や、相談を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の業務(食事の配膳準備 洗濯 干し 野菜のしたごしらえ等)を行って頂いている。一方的に押し付けるのではなく 職員とのコミュニケーションをとりながら 常に人生の先輩としての知識を学ばせていただく時間としている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加の呼びかけや 面会時に日頃の様子などをお伝えし、当方にてご本人にとって困っていることの相談を持ち掛けたり 入所前の自宅での様子などを聞いてヒントをいただくようにして 共に支えていける関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には声掛けをし、ご本人の様子をお伝えしたり 馴染みのお店がなくなってしまう際には それに沿った店などに出かける支援をしている	入居に際しては生活歴を家族に作成してもらい、これまでの暮らしが続くよう整備しています。健康食品が家族から届いたり、喫茶店通いも続け、絵画教室時代の友人の来訪もあります。他にも葬儀への参列を家族と協議した例はありますが、会場等の問題で実現はしませんでした。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの利用者の様子を申し送りなどで把握し関係性が壊れないように 誤解が生じた際は職員がフォローに入るようにしている。それぞれの得意分野で活躍できる場をみつけ ミーティングなどで話し合い生かせるようにしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院治療などでサービスが終了しても面会に行ったり 面会時に家族に会った際は再入所などの有無の相談も聞いている。また 今後についての不安などがあつた際には ケアマネや現状での相談窓口へ繋げている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや要望が常に生かせるよう コミュニケーションがとれるような環境作りに努めている。困難な場合は 家族からの聞き取りや 情報収集を行い ミーティングにて話し合いを持ち本人にとって何が必要かを検討している。	「あの人とは顔を合せたくない」との利用者の意向に合わせて、ソファ2脚はシアタールームのようにテレビに対して平行に置いています。事務所にいきなり入ってきて「相談がある」という利用者もおり、そんな時は居室で心置きなく話してもらうよう時間を作っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との面談時の会話の中や、家族から情報 担当ケアマネ 利用サービス事業者からの情報を収集し 生活歴 趣味 好き嫌いの有無等を把握しその人にあつた生活が送れるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に1日の行動・言動・身体・精神状態を記録したり 申し送りをし情報を共有している。必要に応じ ミーティングにて話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族の要望・意見を踏まえ 職員で話し合い 現状に合った計画を作成するように心掛けている。本人の身体状況など記録に残し状態変化の際には その都度に計画変更をしている。	スタッフミーティングで毎月18名分のカンファレンスをおこない、この時の職員意見は『サービス内容も記載された『サービス計画・モニタリング』へと集約して、計画作成担当者並びに介護支援専門員が情報共有を確かなものとしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活状況を記録し 行動 言動 健康状態 精神状態を記録し 申し送りやミーティングにて 個別カンファレンスを行い情報共有し介護計画の見直しの参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院などの支援 歯科受診の依頼 リハビリの開始など家族・本人の要望・状況に応じて対応している。同一法人内の併設施設とも交流し対応している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でのウォーキング大会参加や、消防署によるAED講習 警察による防犯講習会などを運営推進会議などに取り入れている。災害時などの協力依頼も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一敷地内の医療機関からの往診や 24時間体制での医療支援を行っている。家族の希望での他科受診(歯科 眼科 精神科 循環器内科)への通院支援を行い連携をとっている	協力医は7名のチームで関わっており、利用者個々には月4回の訪問診療があります。また訪問看護事業所の看護師が毎日立ち寄り、その日体調が良くない人のことや職員の疑問などに対応くださっています。ほかに歯科医も定期で口腔ケア全般の指導に入っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との24時間体制を確保している。体調変化、状態異常などは随時報告し受診や往診依頼をしてもらえようようにし、対応についても相談している。家族からの要望があれば看護師からの説明を行える体制にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に現状状態の把握ができるよう面会に行き、状態について疑問があれば 担当者とは必要に応じて情報交換をしており 早期に退院できるようにどのような支援が必要なのか相談できるような関係作りをしている。。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化を常に家族に連絡し 医師の状態説明後や重度化した際 終末期までの状態について 本人 家族 職員と話し合いを持ち支援の在り方について相談している。職員の不安に関してはミーティングにて話し合いを持っている。	『看取りに関する指針』を備えるとともに契約時に説明をおこなってはいますが、「お元気なのに忍びない」として、詳しくは心身状態に変調をきたした時としています。医師、看護師との医療連携は密で、本件への取組みには心配もなく、家族の要望があればおこなうこととしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回AED CRPの講習を受けている。勉強会にて事故発生時の対応について勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人での避難訓練の参加や ホームでの単独避難訓練も行っている。災害時用の備蓄備えについても 勉強会やミーティングにて把握している。水害時の避難については 消防署に避難誘導の依頼をしている	本年度の立ち合いはなかったものの、通年は消防署に入ってもらいAED等の指導を仰いでいます。日中、夜間の想定で実施するとともに、水害については机上訓練もおこなっています。法人では防災業者を招いて新採者を中心に総合訓練を実施することも恒例です。	地域の避難訓練に参加できたら、なお良いと思います。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人権が損なわれないような声掛けでの誘導を心がけている。居室への入室は本人の許可を得て入室し、在室の際はノックを心がけるようにしている。	方言がでてしまうことは『同調』に重なることとしとしても、親しみが過ぎないかについては管理者が目配りしており、職員は『居室にはノックしてから』『トイレ誘導は小声で』『利用者の前で業務連絡しない』といった事業所ルールを遵守しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が自由に伝えられるように多くのコミュニケーションが持てるような環境作りを行っている。本人が選択に困っている場合は声掛けを行いながら何を求めているか何を望んでいるかを訴えやすい声掛けをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や入浴など拒否があった場合などは再度声かけをしたり曜日や順番を変更したりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧している方や、入浴後の整髪 洗面などができる方は自身にて行って頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	パン食や、ご飯にふりかけ 海苔などを提供したり、普通食でも食べやすいように刻むこともし食事摂取量が摂れるようにしている。配膳準備や片付けなどのお手伝いを一緒にしている	魚は骨が抜いてあるもので、また肉・芋・豆・野菜と多様な食材を取り入れた献立で、ボリュームも満点です。また今月は恵方巻きを予定しており、時節に合せたメニューも提供され、毎月の給食会議で研鑽を重ねています。	2つのユニットの内1つは会話も少なく大変静かなので、BGMの導入など検討を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分の摂取チェックをし、食事が摂れない方にはDr Nr 栄養士などに相談しながら栄養補助食品などの活用や 家族へ摂取できる物の持ち込みを依頼している。水分摂取が摂りにくい方はゼリーなどで代用する場合もある		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身でできる方は見守りを行い できない方については介助し対応している。訪問歯科のDrや歯科衛生士のアドバイスをもらったりし 必要に応じて家族に歯科受診の依頼もしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを知るために排泄時間のチェックをし、声掛けを行って失敗の予防をしている。排泄への促し時に拒否がある際は、声掛けの仕方や他の職員へ代わって対応している	立位もとれない状態から本人の意向に応え、職員2人がかりで「なるべくトイレ」を重ねたところ下肢筋力がつき、現在はリハパンへと向上した例もあります。毎日バナナ1/2本、週2回『牛乳の日』を設け、「水分量を～」はよく言われると利用者も零すほど腸環境整備に熱心です。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝にバナナを食べていただいたり、水曜日と日曜日には牛乳、飲みやすいようにカフェオーレにしたりしている。食べこぼしが多い方にはトロミをかけたリ一口大に刻んでいる。毎朝 ラジオ体操 グッパ一体操をし天気のいい日には散歩を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、水、日以外で実地しているが 当日拒否があった場合は声掛けをまめに行ってみたり、順番を変更したりしている。	週2回を目安としています。重度化となり2人以上で介助する必要がでてくると、ミスト噴射と足浴をプラスしたシャワー浴に切り替えています。菖蒲湯、ゆず湯といったかわり湯も実施し、大きな拒否はないものの一人ひとりの特性を鑑みて声かけして清潔を保っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣を生かし 好きな時間に合わせて休んで頂いている。寝付けない人や 不穏な人に関しては一緒にお茶など飲んだり 話を聞いて寝ていただけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬剤情報をファイルし、スタッフに確認 把握できるようにしている。服薬後の状態は看護師に報告している。法人内の薬剤師にも報告し状態把握に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、洗い物、洗濯干し 洗濯たみ 食事準備を個々に合わせて毎日の習慣として 職員と共に行って頂いている。読書や塗り絵をして頂いたり 喫茶店や紅葉ドライブ、花見などに出かけ気分転換を図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気がいい日は、ホームの外周を散歩したり季節によって花見、紅葉見学や、喫茶店に定期的に言っている。他施設の家族への面会や外食など家族の協力も得ている	寒暖差の激しい日は避けていますが、散歩は広い敷地内を周遊しています。桃太郎神社の田楽や入鹿池のつづじ見学、尾張富士など定番する訪問地を幾つか揃え エスケープしそうな利用者は散歩を増やし、ご近所と顔なじみとなっておく、といったリスク管理もおこなわれています。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替金にて対応している。現在、現金管理ができる方がいないので所持している方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある際は、電話の取次ぎを行っている。家族からの手紙はあるが、こちらからの手紙は行えていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの窓から外を眺め その時々季節や天気などが感じられるようになってい 居室が解らない方には 居室前に花を付 けたり 名前が見やすいようにしている	2つのユニットの間に取り外し可能な壁が敷かれ、普段は気軽に行き来するとともに、行事では仕切りをなくして広々使うこともできます。豊かな採光には、うとうと午睡に誘われる自然な温かさがあり、レースのカーテンで目に優しい空間となっています。	キッチンや洗面所等棚の上にモノがあるため、収納場所の再検討を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファで気の合う方同士でテレビを観ていただいたり お話できるようになっている。居室内で読書や フロアにて塗り絵や計算問題が自由にできるようになっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に個々の個室には、使い慣れた家具など持参して頂き 安心して過ごして頂けるような環境作りを心がけている。居室内に家族写真や、趣味で作られた作品などが展示・設置されている方もいる	ベッドやエアコンは備え付けですが、小ぶりのチェストやハンガーラック、目覚まし時計等小物が持ち込まれ、また壁紙もシックな和モダンで部屋ごとに替えてあり、その人その人の居室と成っていることを視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレ 廊下に手すりを設置し、居室には名札や花などの飾りをつけたりし 自由に居室の出入りができるようにしたり トイレもわかりやすく表示している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2393400060		
法人名	有限会社 ふなびきメディカル		
事業所名	グループホームかがやき (東区ユニット)		
所在地	〒484-0064 愛知県犬山市前原西3丁目35番2		
自己評価作成日	平成31年1月11日	評価結果市町村受理日	平成31年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kazokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2393400060-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kazokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2393400060-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市長瀬区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	平成31年1月29日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

運営理念にもある、「一人ひとりが笑顔でその人らしく生活する」事を基本に その方に合った安心して 笑顔でいられる生活をサポートできるように 日々スタッフ皆で取り組んでいます。季節をいつでも感じられるような外出支援や、その人らしく、やりがいや 生きがいがあるような生活が送れるような環境作りを考えて生活していただけるようにしています。当事業所では併設されている他事業所との交流も行っています。また、経営母体に有床診療所があり、医療との連携を持つことにより 健康で安心して過ごして頂けます。

利用者本人の誕生日祝いにぜんざいを大鍋で届けてくださる家族もいて、運営推進会議には常に2~4名の出席者があり、開設から7年を積み重ね家族と良好な関係を築いています。また法人内には介護付有料老人ホーム、グループホーム2棟、住宅型有料老人ホーム、訪問介護事業所が在るほか、母体となるグループ法人は医療型入院施設の他7つの医療・介護事業所を有しており、人材交流や医療連携などのスケールメリットを大いに享受できる環境にあります。忘年会や慰労弁当等の福利厚生とともに24時間365日医療とつながる安心が定着率の高さとなり、「利用者が大好き」という職員を生んでいることが強みの事業所です。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の行事の参加や、「その人らしく生活をしていただく」を理念にスタッフとの話し合いを持ち 日々のサポートをへ活かしている。図書館や、買い物支援 喫茶店訪問を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	推進会議では、自治会長 民生委員 高齢者安心サポートセンターの参加や、地元のウォーキング大会の参加(事業所からは協賛品の提供) 近隣の小中学生の職業体験の受け入れを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方への自由な見学、相談は常時行っている。認知症サポーター養成講座を行い認知症への理解を深めてもらえるようにした		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日々の活動報告を行い参加できない方の意見や、報告は推進会議後の報告書として各家庭へ郵送している。災害時の非常食の備蓄状況 避難時の対応の報告や 緊急連絡先の変更届も依頼し災害時の対応が迅速にできるよう改善した		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	身元引受人などでの困難事例の入所への相談などは市町村に相談したり、介護相談員受け入れやAED講習 災害時の避難の依頼を消防署に行ったり 社会福祉協力校の受け入れを行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内にて 身体拘束廃止委員会を行い その中で知り得た情報をもとに 定期的ミーティングにて勉強会を開催している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的ミーティングの中で 勉強会を開催し 知識 意識の向上を図るように努力している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は対象者はいないが、定期のミーティングにて勉強会を開催し、制度の理解に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にて説明を行い、疑問 質問に対して随時対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の出欠の用紙に 家族からの意見が記入できるようにし、かがやきだよりを発行したり年間の施設での様子をDVDに作成し施設での運営状況を知っていただくようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者には職員から出た 問題・事例発生時に相談 報告を行っている。事業所全体でも月1にミーティングがあり 各部署での問題・事例が報告された際には 法人全体での意見を出し合い解決に結びつけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職業規定に基づき 職員がやりがいや向上心が持てるような職場環境となるよう配慮している。週に2~3回はホームを訪れ職場環境を把握し職員に声掛けを行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者より、実践者研修 外部の研修案内参加推進への働きかけがあり可能な限りでの参加をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設職員の施設見学は常時行っている。多職種連携会議での情報交換や 営業での情報交換 相談をしている。担当地域包括支援センターには 認知症サポーター養成講座を行って頂いた。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談にてアセスメントを行い 本人のニーズを把握し、家族の了承をへて面会などに行き 本人とのコミュニケーションを図り信頼関係 安心した気持ちでの入所に繋がるよう支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設入所相談から施設見学 契約時にアセスメントを行い、サービスに繋げている。家族が納得できるまで相談を受け付けており、面会時にはお声をかけさせていただき ご本人の様子など報告し 常に相談ができる関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が今 何を求めているかの要望を情報収集し出来る限りの対応をしている。必要に応じて 他事業所(他施設 居宅 包括)への紹介や、相談を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の業務(食事の配膳準備 洗濯 干し 野菜のしたごしらえ等)を行って頂いている。一方的に押し付けるのではなく 職員とのコミュニケーションをとりながら 常に人生の先輩としての知識を学ばせていただく時間としている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加の呼びかけや 面会時に日頃の様子などをお伝えし、当方にてご本人にとって困っていることの相談を持ち掛けたり 入所前の自宅での様子などを聞いてヒントをいただくようにして 共に支えていける関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には声掛けをし、ご本人の様子をお伝えしたり 馴染みのお店がなくなってしまう際には それに沿った店などに出かける支援をしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの利用者の様子を申し送りなどで把握し関係性が壊れないように 誤解が生じた際は職員がフォローに入るようにしている。それぞれの得意分野で活躍できる場をみつけ ミーティングなどで話し合い生かせるようにしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院治療などでサービスが終了しても面会に行ったり 面会時に家族に会った際は再入所などの有無の相談も聞いている。また 今後についての不安などがあった際には ケアマネや現状での相談窓口へ繋げている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや要望が常に生かせるよう コミュニケーションがとれるような環境作りに努めている。困難な場合は 家族からの聞き取りや 情報収集を行い ミーティングにて話し合いを持ち本人にとって何が必要かを検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との面談時の会話の中や、家族から情報 担当ケアマネ 利用サービス事業者からの情報を収集し 生活歴 趣味 好き嫌いの有無等を把握しその人にあった生活が送れるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に1日の行動・言動・身体・精神状態を記録したり 申し送りをし情報を共有している。必要に応じ ミーティングにて話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族の要望・意見を踏まえ 職員で話し合い 現状に合った計画を作成するように心掛けている。本人の身体状況など記録に残し状態変化の際には その都度に計画変更をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活状況を記録し 行動 言動 健康状態 精神状態を記録し 申し送りやミーティングにて 個別カンファレンスを行い情報共有し介護計画の見直しの参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院などの支援 歯科受診の依頼 リハビリの開始など家族・本人の要望・状況に応じて対応している。同一法人内の併設施設とも交流し対応している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でのウォーキング大会参加や、消防署によるAED講習 警察による防犯講習会などを運営推進会議などに取り入れている。災害時などの協力依頼も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一敷地内の医療機関からの往診や 24時間体制での医療支援を行っている。家族の希望での他科受診(歯科 眼科 精神科 循環器内科)への通院支援を行い連携をとっている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との24時間体制を確保している。体調変化、状態異常などは随時報告し受診や往診依頼をしてもらえるようにし、対応についても相談している。家族からの要望があれば看護師からの説明を行える体制にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に現状状態の把握ができるよう面会に行き、状態について疑問があれば 担当者とは必要に応じて情報交換をしており 早期に退院できるようにどのような支援が必要なのか相談できるような関係作りをしている。。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化を常に家族に連絡し 医師の状態説明後や重度化した際 終末期までの状態について 本人 家族 職員と話し合いを持ち支援の在り方について相談している。職員の不安に関してはミーティングにて話し合いを持っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回AED CRPの講習を受けている。勉強会にて事故発生時の対応について勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人での避難訓練の参加や ホームでの単独避難訓練も行っている。災害時用の備蓄備えについても 勉強会やミーティングにて把握している。水害時の避難については 消防署に避難誘導の依頼をしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人権が損なわれないような 声掛けでの誘導を心がけている。居室への入室は本人の許可を得て入室し、在室の際はノックを心がけるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が自由に伝えられるように 多くのコミュニケーションが持てるような環境作りを行っている。本人が選択に困っている場合は声掛けを行いながら 何を求めているか 何を望んでいるかを訴えやすい声掛けをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や入浴など 拒否があった場合などは再度声かけをしたり曜日や順番を変更したりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧している方や、入浴後の整髪 洗面などができる方は自身にて行って頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	パン食や、ご飯にふりかけ 海苔などを提供したり、普通食でも食べやすいように刻むこともし食事摂取量が摂れるようにしている。配膳準備や片付けなどのお手伝いを一緒にしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分の摂取チェックをし、食事が摂れない方にはDr Nr 栄養士などに相談しながら栄養補助食品などの活用や 家族へ摂取できる物の持ち込みを依頼している。水分摂取が摂りにくい方は ゼリーなどで代用する場合もある		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身でできる方は見守りを行い できない方については介助し対応している。訪問歯科のDrや歯科衛生士のアドバイスをもらったりし 必要に応じて家族に歯科受診の依頼もしている		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを知るために排泄時間のチェックをし、声掛けを行って失敗の予防をしている。排泄への促し時に拒否がある際は、声掛けの仕方や他の職員へ代わって対応している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝にバナナを食べていただいたり、水曜日と日曜日には牛乳、飲みやすいようにカフェオーレにしたりしている。食べこぼしが多い方にはトロミをかけたリ一口大に刻んでいる。毎朝 ラジオ体操 グッパ体操をし天気の良い日には散歩を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、水、日以外で実地しているが 当日拒否があった場合は声掛けをまめに行ってみたり、順番を変更したりしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣を生かし、好きな時間に合わせて休んで頂いている。寝付けない人や、不穏な人に関しては一緒にお茶など飲んだり、話を聞いて寝ていただけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬剤情報をファイルし、スタッフに確認、把握できるようにしている。服薬後の状態は看護師に報告している。法人内の薬剤師にも報告し状態把握に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、洗い物、洗濯干し、洗濯たみ、食事準備を個々に合わせて毎日の習慣として、職員と共に行って頂いている。読書や塗り絵をして頂いたり、喫茶店や紅葉ドライブ、花見などに出かけ気分転換を図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気がいい日は、ホームの外周を散歩したり季節によって花見、紅葉見学や、喫茶店に定期的に行っている。他施設の家族への面会や外食など家族の協力も得ている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替金にて対応している。現在、現金管理ができる方がいないので所持している方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある際は、電話の取次ぎを行っている。家族からの手紙はあるが、こちらからの手紙は行えていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの窓から外を眺め その時々 の季節や天気などが感じれるようになっている 居室が解らない方には 居室前に花を付 けたり 名前が見やすいようにしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファで気の合う方同士でテレビを 観ていただいたり お話できるようになっ ている。居室内で読書や フロアにて 塗り絵や計算問題が自由にできるようになっ ている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に個々の個室には、使い慣れた家具 など持参して頂き 安心して過ごして頂ける ような環境作りを心がけている。居室内に家 族写真や、趣味で作られた作品などが展示・ 設置されている方もいる		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレ 廊下に手すりを設置し、居室 には名札や花などの飾りをつけたりし 自由 に居室の出入りができるようにしたり トイレ もわかりやすく表示している。		